

# 米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く ⑪④

## 入江内湖遺跡の出土品

— 千拓資料館に展示計画 —

### タイムカプセル入江内湖遺跡

磯崎文五郎さんの調査やこれまでの発掘調査で、縄文時代早期から平安時代までの大規模な複合遺跡であることがわかってきた入江内湖遺跡。

出土したものは各時期の土器をはじめ、縄文時代の骨製のヤス・釣針・石の錘や、古墳時代の鉄製ヤス・漁網の土製の錘や浮子など、漁業に関わるものが多くふくまれています。とくに鉄製のヤスは当時のも

つとも先進的な漁具であり、これらの漁具を利用できる漁民は、単なる漁師ではなく、支配階級に魚を献上するために魚を捕る、特別な漁民であった可能性があります。これを裏付けるように、近くの筑摩には天皇家へ食物を貢納していた役所「御厨」が置かれていました。入江内湖遺跡は、琵琶湖の豊富な水産資源を通して、中央政権との密接な関わりをもつ遺跡です。

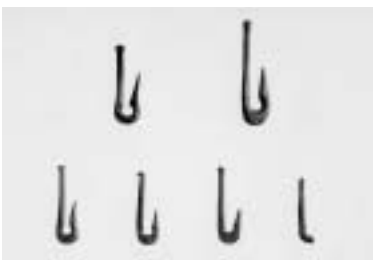
また、内湖の泥に密封されて木製品が残りやすく、これまでの発

掘調査では、縄文時代の丸木舟や漆塗りの器のほか、古墳時代のクワ、スキなどの農耕具、たも、弓、櫂なども見つかっています。とくに縄文時代の丸木舟は五艘出土しています。丸木舟は、漁業の場を拡張だけでなく、物資運搬や交流範囲拡大など縄文社会に大きな影響をもたらしました。

### 「最古級」のオンパレード

関西最古級の釣針

(縄文時代中期末／約四〇〇〇年前)



▲ 骨角製釣針

縄文時代の琵琶湖周辺の漁労活動を物語る資料です。六本出土しました。琵琶湖周辺では、縄文時代の



▲ 丸木舟の出土状況

質食料としては、木の実(ドングリやクリ)が知られていますが、球根類も利用していたことがわかります。 関西最古級の丸木舟 (縄文時代前期中頃) モミの木で作った舟で、長さ五・四メートル、幅〇・五メートルです。ほかに中期末から後期初頭の舟も四艘出土しています。

### 日本最古級の漆器椀

(縄文時代前期中頃)

直径二〇センチ、高さ二〇センチの木製容器で、赤漆を塗っています。漆製品の製作には、高度な技術と、長い工程・膨大な時間を必要とするので、その日暮らしの生活では作れません。当時の社会が安定した経済状態にあつたことを示しています。 琵琶湖千拓資料館の展示室を、湖岸地域の歴史と文化がわかるよう秋にリニューアルする予定です。

(歴史文化財保護課)

調査では、縄文人が食べた琵琶湖産のコイ・ギギ・ナマズなどの仲間骨や歯、ウロコが多数出土しました。その中に一点「マグロの脊椎骨」がありました。入江内湖の縄文人が海岸地域と交換・交流し、海岸地域の食料を手に入れたことがわかりました。内陸部でマグロ属の骨が見つかるのは珍しく、最古級とされています。

### 炭化した球根

(縄文時代前期中頃／六五〇〇年前)

縄文土器の内面に固着していた炭になった球根です。ノビルなどの仲間だとみられます。縄文時代の植物



▲ 漆塗容器の出土状況